

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<u>会 議</u> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	平成29年1月27日
名 称	第9回未来創生委員会（平成28年度第4回）		
日 時	平成29年1月12日 <u>午前</u> ・午後 10時00分～12時15分		
場 所	安平町役場追分庁舎（多目的情報会議室）		
出席者	安平町（企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹 委 員 未来創生委員会委員 8名 外部有識者 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信氏 星洋子氏		
会議概要	<p>1 開会（進行：木林企画財政課長） ◇半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇昨年8月に会議を行って以来となる今年度第4回目の未来創生委員会であるが、この間、町において次期総合計画の基本構想の策定が進められ、昨年12月に原案として事前送付があったものを、本日も議論いただく。 本日は議題として「まちづくりの将来像の決定」とともに、基本構想の原案に基づき向こう10年間のまちの方向性について確認していく予定であるが、会議の進行について、皆様ご協力いただきたい。</p> <p>3 報 告 (1) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（説明：企画財政課 岡） 【概略説明（ポイント）】 議案2P及び別冊の安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略 分野別の重要業績評価指標（KPI）実績（平成27年度） ・平成28年1月に策定した総合戦略に掲げた施策について、設定したKPIの平成27年度末の実績をまとめた。 ・総合戦略に基づく施策は実質的に平成28年度からの動き出しであることに留意 (質疑) なし (2) 「町民まちづくり会議」提言書について（説明：企画財政課 岡） 【概略説明（ポイント）】 資料：「町民まちづくり会議」提言書 ・平成28年6月から9月まで開催した町民まちづくり会議の議論を町に対する提言書としてまとめた。 (質疑) なし</p> <p>4 議 事 (1) まちづくりの将来像の決定について（説明：企画財政課 岡）</p>		

【概略説明（ポイント）】資料：議案3ページ

- ・町民まちづくり会議で議論をいただいた内容に基づき、まちづくりの将来像について同会議で一定の方向性を確認した。
- ・原案として「住みたい 育てたい 帰りたい 愛着と誇りあふれるまち あびら」としてご案内をしているが、この原案に対して様々な意見がある。
- ・そこで、この原案については、再検討するものとし、今回対案を委員会に示し、協議の上、まちづくりの将来像を決定したいと考えている。

（「原案」作成に至るまでの経過→議案4～9ページ）

<原案に対する主な意見>

- ・「住みたい」 → 今住んでいる安平町民の将来像とするべき
- ・「愛着と誇り」 → 押し付けに感じる
愛着と誇りは本来自然発生する個人的感情（行政目標ではない）
安平町をイメージできるものになっていない

<対案>

『住んでいたい 育てたい 帰りたい 心ひとつに未来へ駆けるまち』

- ▶ 基本的に「住む 育てる 帰る」→この部分は基本的に据え置く
- ▶ 「地域間の見えない壁」を次の10年で克服するため「心ひとつに」
- ▶ 将来に進んでいくというイメージを、世界に誇る馬産地から「駆ける」で表現
- ▶ なお、町の景観をイメージする「丘陵」と「馬」を表現する意味で「駈」という漢字も検討したが、通用体（簡略文字）であるため不採択

- ・上記対案にて議論をいただきたい。

（委員意見）

<田中委員>

- ・語呂の悪く、長いイメージがある。
- ・「住んでいたい」はやはり1・2文字多い感じがする。
- ・「心ひとつに未来へ駆けるまち」も長い

<島田委員>

- ・「駆ける」という言葉が、進むという意味合いであれば、「未来へ」という言葉は重複しているような気がする。
- ・「住んでいたい」は語呂の悪さを感じる。

<山崎委員>

- ・確かに安平町に住んでいる方にとって「住んでいたい」と表現したいのは理解できるが「住みたい」であっても意味は通るのではないか。
- ・また「住みたい」は外へのメッセージも含まれ、「住みたい」で良いのではないか。

<西村副委員長>

- ・「住んでいたい」という言葉は、誰かの問いに対して答えているようなイメージがあり、能動的な表現である「住みたい」で抵抗はない。

<山口委員>

- ・目標数値にとらわれているのではないか。今いる住民を意識しすぎている感がある。
- ・外から見て「住みたい」でなければならない。人口減少対策が重要課題である。

<星外部有識者>

- ・「チームあびら」を意識したいという説明の「チームあびら」という言葉をそのまま使用してはどうかとを感じるが無理なのか。カタカナは使用できないルールがあるのか。

(企画財政課 岡)

- ・「チームあびら」は使いたい言葉であったが、他の自治体で使用している例が多く、また、町民まちづくり会議の議論において、町民から「特段チームに帰属しているつもりも無いのに、チームあびらと表現されても違和感がある」という意見があったことから、使用しないこととした。

<菅原外部有識者>

- ・最初に「住みたい」と書かれると移住ありきに見え、違和感がある。
- ・「住んでいたい」という言葉の語呂の悪さはそのとおりであるとは思いますが、表現すべきは、今いる町民が幸せに暮らしてれば、それを見て外の人も住みたいと思えるのだろうと考える。順番が違うのではないか。
- ・そう考えると「住みたい」「住んでいたい」も先ではない。町内の子育て世代がこの町で子どもを育てたいという思いが先に来る。それを見て外の人が住みたいと考える、帰って来たいと思える。これが順番だろう。
- ・「地域間の見えない壁」という言葉は、計画本文中にあまり出てこないため、唐突感が否めない。行政課題としても強引すぎる。
- ・「駆ける」という文字は、あえて「駈ける」を使っても良いのではないか。安平町の丘陵をイメージするならば、逆に「駈」が相応しい。
- ・ただし、新ひだか町は総合戦略で「馬力本願プロジェクト」という言葉を使用している。差別化できているかは検討すべき。

<小林委員長>

- ・本日、町で示した対案はこの場で修正してもよいのか。

(企画財政課 岡)

- ・宿題とするべき部分は持ち帰りが必要であるが、委員の協議によって決定できればと考えており、この場で修正しても全く問題はない。

<田中委員>

- ・様々な町民参画でフレーズが確認されており、自分も参加している立場であるため、発言を躊躇してしまうが、「住みたい」「住んでいたい」という表現は、「住居」をイメージしてしまう。「暮らす」という表現はどうか。
- ・「暮らしたい」の方が良いのではないか。

(企画財政課 岡)

- ・確認だか、まず、「育てたい」を先にする。そして「住みたい」「住んでいたい」を「暮らしたい」に変更することで了承いただけるか確認したい。

<小林委員長>

- ・「住んでいたい 育てたい 帰りたい」を「育てたい 暮らしたい 帰りたい」に変更することでよろしいか。

(確認) 委員了承

<佐々木委員>

- ・「心ひとつに」は違和感がある。地域間の見えない壁というイメージがいまひとつ湧かない。行政課題としての捉えならしっかり説明が必要。
- ・コミュニティ活動や町民活動ということから出ているのであれば理解できるが、実感の無い「地域間の見えない壁」という言葉を出されても、いつまでも合併を引きずっているようで、率直に違和感がある。
- ・「心ひとつに」は当たり前で、不必要ではないか。

(企画財政課 岡)

- ・「心ひとつに」に対する違和感の話があったが、まちづくり基本条例を制定した当町においては、町民が行政を監視するというのではなく、町民の皆さんが主体となって、いかに行政と一緒にまちづくりを進めるかが問われている。
- ・これは10年の大きな課題と目標であり、「心ひとつ」という言葉はこうした考えを表現しているもの。
- ・「心ひとつ」という表現に違和感という意見があったが、「地域間の見えない壁」が課題であるということへの違和感と理解する。
- ・対案で書いた「心ひとつ」は「チームあびら」を表現したものであり、別の言葉があるかもしれないが、協働という考えは必要であると感じる。

<山口委員>

- ・「心ひとつに」と表現したいがゆえに、「地域間の見えない壁」を無理やり課題にしたように聞こえる。
- ・この会議では既に「地域間の見えない壁」という課題を解決するための施策を話し合っているのであって、問題点として踏まえつつ、それを前面に出す必要はないのではないか。
- ・今後の10年に向けて、自信の無さを感じる表現は使うべきでない。
- ・みんなでやる。みんなでまちづくりを進める。これを表現できれば良い。

<小林委員長>

- ・町民全てが「地域間の見えない壁」を課題として感じてはいないのではないのか。行政として感じている課題なのではないのか。

(企画財政課 岡)

- ・委員長のご指摘は確かにそのとおりかもしれない。地域間に壁を感じると意見されたのは、自治会・町内会等の方から多く出されているが、逆に農業の方からは、

それぞれ長年地域で培われた文化に違いがあるのは当然であり、むしろ文化が違うことは長所でもあるという指摘があった。

- ・最もメッセージとしていきたいのは、「みんなでまちづくりを一緒にやってみよう」ということである。
- ・直接的に「まちづくりを協働でやりましょう」と表現すれば、それは行政が行うべきだという意見もある。表現が難しい。
- ・これまでコミュニティが提供してきた「行政の目が行き届かない細かな日常サービス」が、人口減少と高齢化に伴うコミュニティの縮小により、今後誰が担っていくのかということが今後のまちづくりで大きな問題になると認識。そのとき、どのようにみんなで一緒にやっていくかが最大の課題。

<佐々木委員>

- ・だからこそ、「ひとつ」という表現はいらぬのではないか。
- ・未来志向からは外れるような気がする。

(企画財政課 岡)

- ・「心ひとつに」を「みんな一緒に」という意味合いで変更する場合、どのような言葉があるかということになる。

<菅原外部有識者>

- ・「みんなで未来～」で何か問題があるのか。
- ・「みんなで」という言葉で、協働も、未来志向も表現している。

<西村副委員長>

- ・「みんなで」という案で、すっきりする。

<佐々木委員>

- ・星外部有識者もおっしゃっていたとおり「チームあびら」も表現しているように感じる。

<菅原外部有識者>

- ・どちらにしてもこれからの時代は、みんなで一緒にやっていかなければならない。
- ・行政だけでやることも無理、民間だけでやることも無理。みんなでまちづくりをやっていかなければダメである。

(企画財政課 岡)

- ・「みんなで」とした後の表現についても意見いただきたい。

(企画財政課 岡)

- ・「みんなで未来～」で良いとした場合、「駆ける」という文字を、通用体である「駈ける」で表現することに違和感はないか。

<佐々木委員>

- ・安平町のイメージが湧いてくる。「駈ける」が良い。

<山口委員>

- ・ 駈ける = 未来へ向かっている表現であり、「未来」は必要か。

<田中委員>

- ・ 語呂として考えると「未来へ」があると良い。

<「みんなで未来へ駈けるまち」という表現が語呂の据わりも良いという意見が多数>

<星外部委員>

- ・ 対案を出したい。
- ・ どうしても「あびら」という表現を入れたい。
- ・ 「あびら みんなで未来へ駈ける」としてはどうか。（まちを取る）

(企画財政課 岡)

- ・ まちの名称を入れるか入れないかは、最近の自治体のトレンドは入れる自治体が多い。しかし、自治体名を将来像に入れる自治体の多くは、その名称を入れなければ文言でイメージが湧かず、どこの自治体かが分からないという問題があるため。
- ・ 「駈ける」という文言で、一応はイメージできると思う。

<菅原外部有識者>

- ・ 私は「あびら」を絶対に入れるなど主張しているが、いくつか理由がある。
- ・ まず、近隣のまちのまねになってしまうこと。
- ・ また「あびら」と宣言しなければ、10年経っても、まだひとつになっていないという印象につながる。

<西村副委員長>

- ・ 他のまちへのPRを考えると自治体名称が入っていないと分かりづらい。入っていると分かりやすい面は確かにある。

(企画財政課 岡)

- ・ 仮にPRでこのフレーズを使用する場合は、当然「あびら」を後ろに入れて表現することとなる。
- ・ なお、PRする場合のキャッチフレーズとまちづくりの将来像は異なる。

<まとめ>

【第1案】『育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駈けるまち』

【第2案】『育てたい 暮らしたい 帰りたい あびら みんなで未来へ駈ける』

(企画財政課 岡)

- ・ この2つの案をもって、町の方で最終決定したい。

<小林会長>

- ・ 最終的にこの2つの案のいずれかで、町として最終決定することで了承してよろしいか。

(委員：了承)

(2) 安平町総合計画基本構想（原案）について（説明：企画財政課 岡）

【概略説明（ポイント）】資料：議案10ページ、安平町総合計画（12月15日現在）原案、SWOT分析詳細資料、安平町総合計画基本構想検証報告書

- ・12月15日現在の原案で委員に送付しているが、内容については随時見直しを行っていることを説明。（修正ポイントを議案10ページ掲載）
- ・現行計画の検証については、別冊の安平町総合計画基本構想検証報告書を用いて、数値目標を定めていない現計画においては、事業の実施度のみで検証せざるを得ないことを説明。

<小林委員長>

- ・原案についてはボリュームが多いことから、ページに分けて意見を求める。（1ページから8ページまでに対する質問・意見）

（質疑：なし）

<小林委員長>

（9ページから27ページまでに対する質問・意見）

<菅原外部有識者>

- ・第2章第2節について、ここが安平町における追い風と逆風、機会と脅威になるわけだが、本文中に書かれていないものが、「機会」と「脅威」として抽出されていることに違和感がある。本文と抽出した項目の整合性を図る必要がある。
- ・次に（1）から（9）まで共通して社会情勢を記載した後、これに対する安平町の現状を記載している。ここに表現されている内容については、安平町の「強み」と「弱み」を記載しているものであり、そこから抽出できるものは本文の下に「強み」と「弱み」として記載するべきではないかと思う。

（企画財政課 岡）

- ・ご指摘あった部分について見直しを行う。

<小林委員長>

（28ページから34ページまでに対する質問・意見）

（質疑：なし）

<小林委員長>

- ・次に34ページ以降は、政策分野ごと質疑を受ける（37ページから39ページまでの子育て・教育分野）

<星外部有識者>

- ・前段で全体の見直しを行っているとし、各政策分野でSWOT分析表を添付するとあったが、再度説明いただきたい。

(企画財政課 岡)

- ・各政策分野のSWOT分析が分かりづらいことから、議案の11ページ・12ページに掲載したものを、各政策分野に追加するもの。

<小林委員長>

(次に経済産業・移住定住として、40ページから42ページまでの質問・意見)

<菅原外部有識者会議>

- ・移住定住は「産業経済」と同じ括りにしなければならないのか。
- ・確かに雇用や企業誘致が移住定住に繋がることは否定しない。しかし、商業活性化、農業振興と同じ分野に移住定住施策があることに違和感がある。
- ・他の分野への移動もくっつけどころが難しいところだが、仮に企業誘致が成功しても、住みたいと思えるためには、町民とのコミュニケーションが重要なのであり、そういう論法で行けば、「人・コミュニティ」の方が据わりも良い。
- ・また、基本施策6でシティプロモーションについての記載があるが、これは全体的な町のPRを記載したものであり、移住定住に限らない。31ページにもPRは全ての施策に必要とある。そうした意味で、行財政運営分野に移動するべきではないか。
- ・基本施策4で「官民一体」と表現しているが、一昔前のイメージがする。表現について「公民連携」に変更してはどうか。
- ・基本施策1では「地域特性を活かした」とあるが、施策の方向性において「地域特性」の記述がない。このような表現が他にも存在するので見直しをお願いしたい。

(企画財政課 岡)

- ・経済産業への移住定住の位置づけについて、分野への含め方は悩ましい部分がある。
- ・当町は移住定住と交流人口の拡大を一体的に行う考えから、この場所に入れ込んだ。
- ・知名度向上から交流人口の拡大、そして最終的な移住定住というストーリー。
- ・地域の受け入れ態勢の考えから「人・コミュニティ」へという意見もいただいたが、住環境とセットとする考え方もある。いずれにしても持ち帰り検討したい。

<小林委員長>

(次に健康福祉分野として、43ページから45ページまでの質疑)

- * 文中において色の薄い文字が散見されることに対し、星外部有識者から指摘があり、文字修正箇所であることを回答。

<菅原外部有識者会議>

- ・分野名を「健康福祉」としているが、「健康・福祉」とするべきではないか
- ・また、この分野は、施策項目の内容が類似しているものが多く、検討に甘さを感じる。

- ・中身が違うのであればしっかりと分けて考えるべき。
- ・43ページの「民間法人による各種福祉・介護サービス提供の推進」とあるが民間が推進することを総合計画に記載するのか。
- ・基本施策2のタイトルと、施策項目(1)が同じタイトルであること。
- ・基本施策3の「支え合い・助け合い」と施策項目(2)の「地域福祉サービスの充実」の関係性が不明であること。
- ・基本施策5の「シルバー世代が活躍できる生涯現役社会の実現」における「地域包括ケアシステムの構築」とどのように結びつくのかが不明であること。
- ・とにかく健康福祉の分野は適当感があるので見直しを行うべき。

<小林委員長>

(次に住民生活・都市基盤として、46ページから49ページまでの質問・意見)

(質疑：なし)

<小林委員長>

(次に人・コミュニティとして、50ページから52ページまでの質問・意見)

(質疑：なし)

<菅原外部有識者会議>

- ・「人・コミュニティ」の分野の名称はいかがか。

(企画財政課 岡)

- ・「人づくり・コミュニティ」へと変更を予定

<小林委員長>

(次に行財政運営として、53ページから54ページまでの質問・意見)

<星外部有識者>

- ・この原案で「写真」として枠組みされているものがあるが、どのようなイメージか。

(企画財政課 岡)

- ・その分野をイメージする写真を掲載したい。ただし、個人情報など難しい問題も多くなっていることから、選定については十分注意したい。

<小林委員長>

(次に重点プロジェクトとして、55ページから56ページまでの質問・意見)

<田中委員>

- ・重点プロジェクトとは、各政策分野の施策の中からひとつに絞りこみをするイメージで作られているのか。

(企画財政課 岡)

- ・イメージとしては、各政策分野の施策をまとめて、横連携を図りプロジェクト化する考えである。
- ・36ページから54ページまでの施策から引っ張ってくるイメージであるが、メリハリについて検討している。
- ・この重点プロジェクトは、町の課題である各分野の担い手不足。これは農業・商業・コミュニティ活動などあらゆるもの共通である。一方、チャンス（機会）として首都圏では「田園回帰」と呼ばれる田舎暮らしを希望する流れができつつある。
- ・地方は、移住・定住対策に躍起であるが、この首都圏の移住希望者の中には、新たなビジネスを起こそうとする人もおり、これらのターゲットに対して、地域の困りごとをまとめ、必要人材を明確にし、PRしながら新たな移住・定住対策を実施していくことはできないかということが、重点プロジェクトの考え方である。

<菅原外部有識者>

- ・55ページの施策の取組み例が記載されているが、これが36ページから54ページまでの施策にひとつも出てきていない。
- ・「安心・平穏」とあるが、「平穏」が気になる。「平和」でも良いのではないか。
- ・56ページであるが、このフロー図は、
 - ①地域の問題は地域が一番分かっている。
 - ②これまで地域の課題は、役場が、国や道の補助を引っ張りつつ、解決してきたが、今後は地域（自分たち）でなんとかやっていく必要がある。
 - ③とは言いながら、個人では何もできないことから、行政、地域住民、企業などが入って役割分担しながら協働で解決していく必要がある。
 - ④その課題解決していく手段のひとつとして、コミュニティ・ビジネスや、アウトソーシングなどの選択がある。
 - ⑤地方での起業・創業を目指す人も相当数いる。地域住民がコミュニティ・ビジネスを成長させることができれば、起業・創業希望者の安平町への移住・定住へとつながれるというのが、このプロジェクトの趣旨である。
- ・つまり、地域活動が盛んになれば、子育て世代に選ばれるまちづくりにつながり、起業・創業が盛んになれば、雇用につながるというのが考え方となる。
- ・現在の54ページのフロー図の「②地域課題の解決」において、これが拡大すること、うまく回っていくことによって、雇用機会の創出につながるということがしっかり書かれていないことから、その点考え方をまとめていただきたい。

(企画財政課 岡)

- ・「安心・平穏」の言葉は、町民まちづくり会議で出された言葉であるが、「平穏」という言葉に違和感があるというのは、役場内部からも指摘があり、見直しを検討したい。
- ・なお、55ページの施策例のうち、庁舎内に新たに協働を推進するための組織を設置する検討が進められている。他の事業例について薄い感じがあるため、整理したい。

<小林委員長>

(最後にまちの将来都市構造として、57ページから58ページまでの質問・意見)

<田中委員>

- ・58ページの森林について、環境保全機能については記載があるが、森林の活用について記述がない。木材の利用としての位置づけはできないのか

<小林委員長>

- ・安平町の木材の活用方法として、カラマツ材は地域内の木材加工会社へ、チップ材は白老の竹浦へ出している。また、木質バイオマスへの相談もある。
- ・生業として活用できる木材は少なく、木材の種類が少ないという現状。

(企画財政課 岡)

- ・安平町は特に水源が乏しく、水源かん養が土地利用として最重要と考えている。

<山口委員>

- ・全体的な部分であるが、この計画の具体的な内容について、どのような公表方法を検討しているのか。
- ・PRとして外部の人たちにどのように見せようとしているのか。
- ・冊子だけをホームページに掲載するだけか。
- ・せっかく出すのであれば、分かりやすく表現をするべきではないか。

(企画財政課 岡)

- ・当然、作成した計画書をホームページに掲載するほか、外の人に見やすい形でPRを行っていく考えである。
- ・なお、町のホームページは本年3月にリニューアルする予定。

<小林委員長>

全般的な部分で質問・意見があれば伺いたい。

<山崎委員>

- ・移住・定住をどこに入れるかという議論があったが、まさに重点プロジェクトが移住定住のポイントであることから、政策分野から移住定住を外し、重点プロジェクトとして位置づけすることはできないのか。
- ・様々な施策の横展開の先に移住定住があることから、そのような考えもありではないかと考えた。
*重点プロジェクトを膨らませる必要はある。

(企画財政課 岡)

- ・様々な意見をいただいているので、この点について検討させていただきたい。

<佐々木委員>

- ・組織体制の見直し、職員の意識改革などが掲載されているが、職員は意欲的に働いていると思うし、あえて当たり前のことをここで掲載する必要があるだろうか。意見としておきたい。

(企画財政課 岡)

- ・意見として承りたい。

5 その他

- ・次回を1月下旬、2月の頭で調整。第11回目の会議は2月の20日の週で調整したい。
*その他「フォーラムin東いぶり」の開催周知など説明

6 閉 会

(終了 12:15)